



小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	姫路医療生活協同組合	代表者	荻野 敏夫	法人・事業所の特徴	『その人らしく気持ちよく生きる』を法人理念に、医療と介護の豊富な多職種事業所が連携を取り、包括的に支援できることが特徴です。『一人一人に寄り添う、地域に寄り添う』を小規模多機能ホームの理念に7ヵ所開設し、営業しています。住み慣れた地域で尊厳を持ち有意義な人生を送れるように在宅生活を意識し、利用者やご家族の状況の変化にも柔軟に対応するようにしています。
事業所名	小規模多機能ホーム おおつ	管理者	竹岡 友香子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	1人	1人	1人	2人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の時期の見直し、早めに取り組んで期限内に提出。全職員の意見が反映されるよう努力する	自己評価の時期の見直しを行い、全職員の提出があり意見交換が行えた。		
B. 事業所のしつらえ・環境			居室にTV設置はあるかの問い合わせもあるようなので検討してはどうか。	TVの設置は居室にあるか？との問い合わせがある。今後設置を検討していきたい。
C. 事業所と地域のかかわり		コロナ禍でもあり、夏祭り等の開催が難しかった。今後の地域とのかかわり方について検討が必要である。	今年も夏祭りは厳しい状況であり、違う形にするか今後の地域とのかかわり方を考えていく必要がある。	コロナの状況を見て、地域との関わり方について検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	近隣へはチラシを配布し小規模多機能の役割を伝えていく。	チラシの配布は行えなかったが近隣の方の見学や問い合わせはありその都度小規模多機能ホームの説明をし見学をして頂いた。	近隣の方の利用が増えてきたとの事、小規模多機能ホームらしい関わりが出来ている。	
E. 運営推進会議を活かした取組み		コロナ禍で十分な意見交換が行えなかった。		
F. 事業所の防災・災害対策	自治会と地域の防災について協力して考えていく。	自治会との防災についての話は進まなかった。	消防団・青年団等に相談し今後の防災について考えていく必要がある。	引き続き、自治会と地域の防災について考えていく。